

られて、同氏が観測にカムバック下されば最適任なのですが、同氏の話では充分不可能との事ですので、之も駄目といふ様な次第で、他に月面に特に興味を有つておられる方は無い様です。

大體、日本には英國の如く遊星や月の面を永續的に観測すると云ふ人の無いのは頗る遺憾に存じます。小生も月面には人一倍興味を有つており、Goodacre 氏の様な人が日本に居られたらと常に思つて居ます。私としましては、遊星面の方を木邊氏が若しやつて下さつたら、月面の方も手をつけたいと思つて居ますが、木邊氏も段々御多忙、小生もいよ々々忙がしく、且つ責任も重くなりますので、天文の方の仕事も、恐らく今後充分な事は出来ないかと遺憾に思つており、豫め御詫び致しておきます。かく申す小生自身が、適任者があれば遊星面課長を辞させて頂き度いと存じておる位でございます。

26種反射も遊星と月面の爲に、26c/m の口径を撰びましたのですが、充分活用出来ぬ内に、心ならずも手を引かざるを得なくなりつゝある事は返す々々も残念で、先生の御知遇に對しても、御恩返しが出来ず、残念至極で御座います。兎に角餘暇の許します限り、遊星と取組をしております。

大變脱線致しましたが、小生も月面は好きで居乍ら、御世話出来ぬ點、悪しからず御寛容下さいませ。目下火星観測の整理を(餘暇を見て)やりつゝありますが、十二月中は多忙を極め、何も出来ず、一月は前半は來客其他で暇なく、後半は棚卸しの爲これ迄急がしく、二月になりましたら暇もある事と存じますから、火星原稿次號は少しにしまして、二月にユツクリ整理して、寫眞等も其の時、作り度いと思つております。第二回分は二三日中に御送り申し上げます。

一月27日

伊達英太郎

編輯後記。どうした星のめぐり合はせか？ 此の頃編輯室には良い原稿が山積しつゝある。今、手許にあるものをまとめると、僅に 200 頁の雑誌が出来上りさうだ。S. I. 氏、伊達氏の續稿の外に、後藤氏、二葉氏、水野氏、小澤氏、中村氏のもの、それから海外の學者の翻譯も五つ六つ。★南米へ日食観測に行く準備のため、吾々もそろ々々忙しくなる。器械は大體見當が付いたが、次は人員と資金との問題である。こんどは我が東亞天文協會の國際事業として行くので(政府や官吏學者は此の際は外國などに出かけない方が國策上に宜しい)會員の中から優秀な人物を今物色中である。日本を出發するのは七月頃、歸朝するのは年末になる見込み。(X. Y. Z 記)